

評価基準について

I 個別事業担当課による1次評価（事業評価シート：様式1）

① 個別事業の実績や事業の改善内容に基づいて、下記の評価基準により各個別事業の「実績値及び事業内容」の評価ランクを判定しています。

なお、評価基準は、「ア）実績値（数量的）の評価基準」、「イ）事業内容（質的）の評価基準」によります。

ア）実績値（数量的）の評価基準

実績値の評価ランク：「指標値（20年度実績値）」と比較して判定

評価 ランク	評 価 基 準	
A	事業実績値が大きく変動したもの	
	具体的には	① 指標値と比較して実績値が大幅に増加（目安：15%以上）したもの ※増加することで評価される事業が対象 ② 指標値と比較して実績値が大幅に減少（目安：10%以上）したもの ※減少することで評価される事業が対象
B	事業実績値が変動したもの	
	具体的には	① Aランクに届かないが指標値と比較して実績値が増加したもの ※増加することで評価される事業が対象 ② Aランクに届かないが指標値と比較して実績値が減少したもの ※減少することで評価される事業が対象
C	事業実績値が現状維持で変動がなかったもの	
	具体的には	① 指標値と比較して実績値にほとんど変化がなかったもの ② 実績値の多寡で事業を評価できないもの
D	事業実績値が結果として悪化したもの、または当該事業が未着手となったもの	
	具体的には	① 指標値と比較して実績値が減少したもの ※増加することで評価される事業が対象 ② 指標値と比較して実績値が増加したもの ※減少することで評価される事業が対象 ③ 事業が一時休止となり、実績値がないもの ④ 新規事業として行動計画書に掲載されたが、未着手または着手段階のため実績値がないもの

イ) 事業内容（質的）の評価基準

事業内容の評価ランク：前年度の「事業内容の質的改善事項」等と比較して判定

評価 ランク	評 価 基 準	
A	事業内容（質）が大きく充実・拡大したもの	
	具体的には	① 特筆できるような事業内容の改善が行われたもの 例：対象者拡大、支給額の増額など、新聞や広報やまなどに掲載されたもの
B	事業内容（質）が充実・拡大したもの	
	具体的には	① 結果にかかわらず、何らかの事業内容の質的改善（市民サービス向上）を行ったもの
C	事業内容（質）が現状維持で変化がなかったもの	
	具体的には	① 事業内容の質的改善（市民サービス向上）は行われなかったが、結果現状維持できたもの ② 単に予算どおり事業を実施したもの
D	事業内容（質）が現状より結果として低下したもの	
	具体的には	① 何らかの理由により事業内容（質）が低下したもの 例：法改正、予算削減など ② 予定どおりに事業を実施（達成）できず、事業内容（質）が低下したもの

② 次に「事業評価シート」の評価ランクを基に全ての個別事業の『1次評価』を判定しています。

【 1次評価の判定基準 】

← 事業内容の評価 →

	A	B	C	D
A	A	A	B	C
B	A	B	B	C
C	B	B	C	C
D	C	C	C	D

↑ 実績値の評価 ↓

Ⅱ 子ども・子育て会議委員による2次評価（事業評価シート：様式4）

前項で決定した各個別事業の『1次評価』を点数化し、19施策ある個別目標の評価点を決定しています。

① 1次評価の評価点

個別事業の「1次評価」を「評価ランクの点数」を基に点数化し、当該「個別目標」にぶらさがる個別事業の本数で除し、単純平均したものを当該「個別目標」の評価点としています。

【 評価ランクの点数 】

評価ランク	A	B	C	D
点数	5点	3点	1点	0点

② 2次評価の評価点

個別事業の「1次評価」を外部評価として、17名の子ども・子育て会議委員が「評価基準と評価点（子ども・子育て会議委員用）」を基に点数を付し、その合計を委員数で除し、単純平均したものを評価点としています。

【 評価基準と評価点（子ども・子育て会議委員用） 】

評価点	個別目標の達成状況に係る評価基準
5点	個別目標の達成に向けて、おおむね順調に進展している
3点	個別目標の達成に向けて、僅かだが進展している
1点	個別目標の達成に向けて、何らかの改善が必要である

③ 評価結果（最終評価点）

なお、評価基準は、「個別目標の最終評価基準」を基に個別目標の最終評価点としています。

【 個別目標の最終評価基準 】

最終評価点	個別目標の評価内容
～5点	個別目標の達成に向けて、大きく進展している
～3点	個別目標の達成に向けて、おおむね順調に進展している
1点	現状維持に留まっている。（現状維持でやむなしも含む）
1点未満	実施状況が芳しくなく、大きな改善が必要である

※ 1次評価（個別事業担当課）と2次評価（子ども・子育て会議委員）における評価点の差について

- ・ 上記Ⅱに記載のとおり、1次評価の4段階に対し、2次評価が3段階であることから、次の例のように評価点に差が生じ、2次評価の評価点が高くなる状況があります。

評価基準の例	【1次評価】 （4段階）	【2次評価】 （3段階）
	各事業担当課	子ども・子育て会議委員
・ 概ね現状維持	1点	3点
・ 事業内容（実績）が充実・拡大 ・ 目標に向け順調に推移	3～5点	5点